

放射線と健康管理に関するアンケート調査
結果報告書

令和7年7月

福島市

- 目次 -

I	調査の概要	2
II	アンケート調査結果	4
1	回答者の属性について	
(1)	性別	5
(2)	年齢	6
(3)	世帯員数	7
- 2	中学生以下の世帯員	7
(4)	職業	8
(5)	原発事故当時の住所	9
- 2	転入してからの期間	9
2	放射線の健康影響について	
(1)	自身や家族への健康被害の可能性	10
(2)	(1)の理由	12
(3)	次世代以降への健康被害の可能性	13
(4)	(3)の理由	16
3	内部被ばく検査について	
(1)	受検履歴	17
(2)	今後の受検希望	18
(3)	受検を希望する理由	19
(4)	受検を希望しない理由	20
(5)	検査の規模、終了時期	21
(6)	小中学生への検査体制	24
4	外部被ばく検査について	
(1)	受検履歴	27
(2)	今後の受検希望	27
(3)	受検を希望する理由	28
(4)	受検を希望しない理由	29
(5)	検査の規模、終了時期	30
5	福島市の放射線に関する取り組みについて	
(1)	放射線に関する情報の入手方法	31
(2)	福島市に求める放射線対策	34
6.	自由意見	
(自由記載)		37

I 調査の概要

調査の概要

1 調査の目的

福島市では、放射線による健康への影響や不安に対応するため、内部被ばく検査や外部被ばく検査を行ってまいりましたが、市民の皆さまがどのようなお考えや要望をお持ちになっているか、また、福島市で生活していてどのように感じているのかをお尋ねし、今後の放射線健康管理事業を検討するため、アンケート調査を実施いたしました。

2 調査設計

- (1) 調査地域 福島市全域
- (2) 調査対象 18歳以上の市民から無作為に抽出した 3,000人
(令和6年10月31日現在の住民基本台帳による)
- (3) 調査方法 郵送により配布し、郵送またはインターネットによる回収
- (4) 調査期間 令和6年11月27日(水)～令和6年12月20日(金)
- (5) 回収結果 回収数：710人
回収率：23.7%

3 報告書の見方

- (1) 各設問の構成比(%)は百分率で表し、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表記しています。
そのため、合計が100.0%にならない場合があります。
- (2) 設問一つにつき、回答者の考えに最も近い回答を一件選択するものとなりました(設問5を除く。)が、複数回答や無回答がありましたので、回答者数と回答数の合計が異なります。

Ⅱ アンケート調査結果

1 回答者の属性について

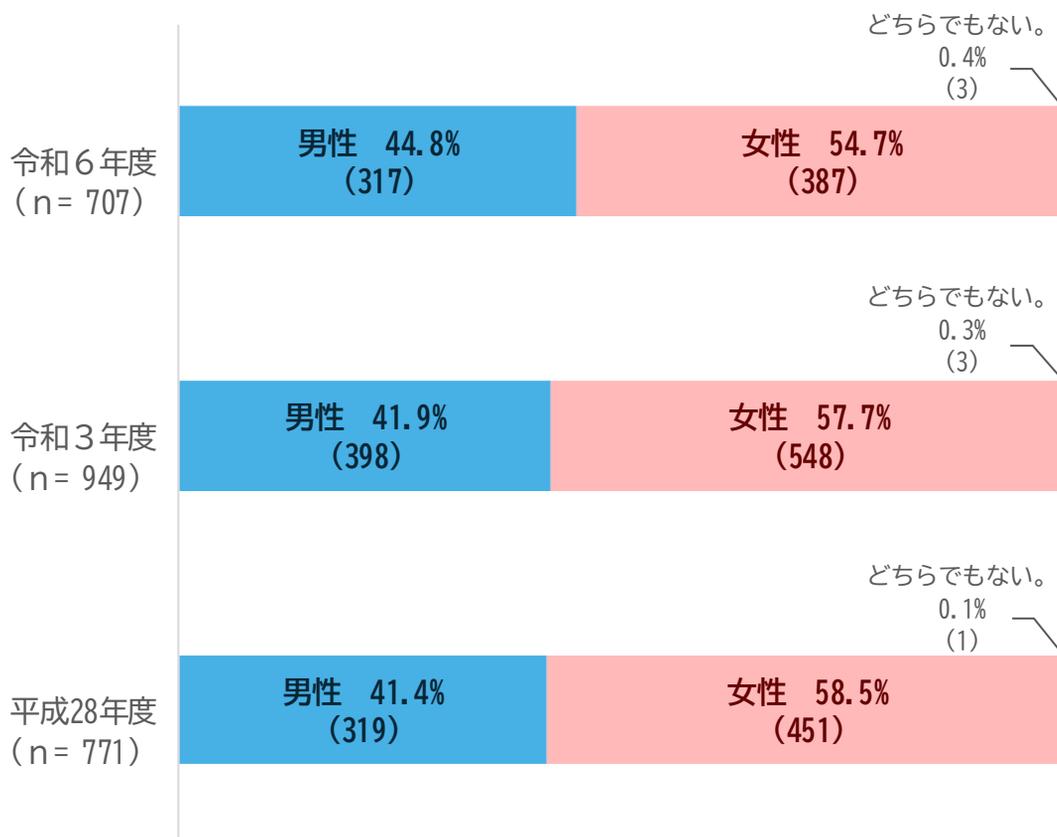
(1) 性別

問 性別

- ・回答者の性別は「男性」が44.8%、「女性」が54.7%で、女性が9.9ポイント上回っています。

性別	人数	構成比 (%)
男性	317	44.8
女性	387	54.7
どちらでもない	3	0.4
計	707	100.0

- ・令和3年度、平成28年度に実施したアンケート調査と比較すると「男性」の割合が増加し、「女性」の割合が減少しています。

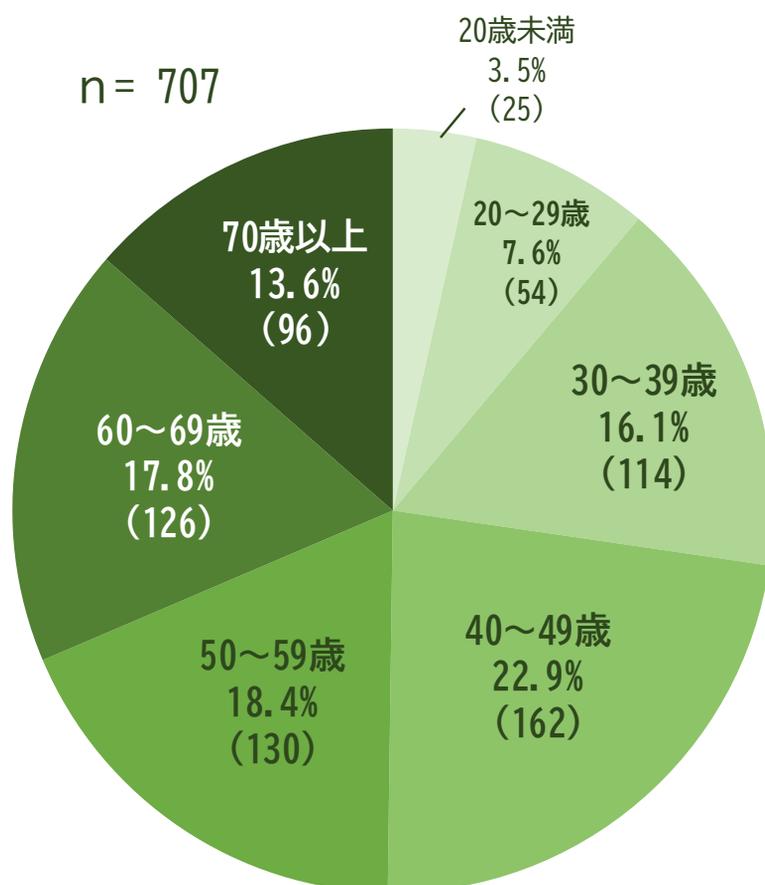


(2) 年齢

問 年齢

- ・年代別に見ると「40～49歳」が22.9%と最も多く、次いで「50～59歳」が18.4%、「60～69歳」が17.8%、「30～39歳」が16.1%などとなっており、30代～60代が全体の75%以上を占めています。

年齢	人数	構成比 (%)
20歳未満	25	3.5
20～29歳	54	7.6
30～39歳	114	16.1
40～49歳	162	22.9
50～59歳	130	18.4
60～69歳	126	17.8
70歳以上	96	13.6
計	707	100.0



(3) 世帯員数

問 世帯員数

- ・世帯員数は「1名」が14.3%、「2名以上」が85.7%となっています。

世帯員数	人数	構成比 (%)
1名	99	14.3
2名以上	592	85.7
計	691	100.0

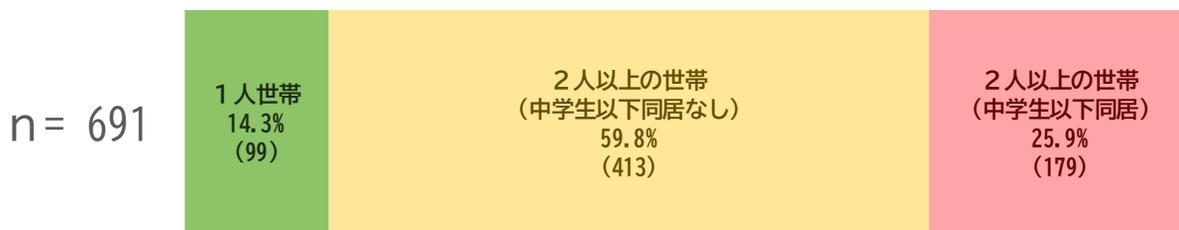
(3) - 2 中学生以下の世帯員

問 中学生以下の方と同居していますか。

- ・「同居している。」が30.2%、「同居していない。」が69.8%となっています。

同居の別	人数	構成比 (%)
同居している。	179	30.2
同居していない。	413	69.8
計	592	100.0

- ・世帯員数は「2人以上」が多数を占めており、そのうち中学生以下の方と同居している割合は25.9%となっています。

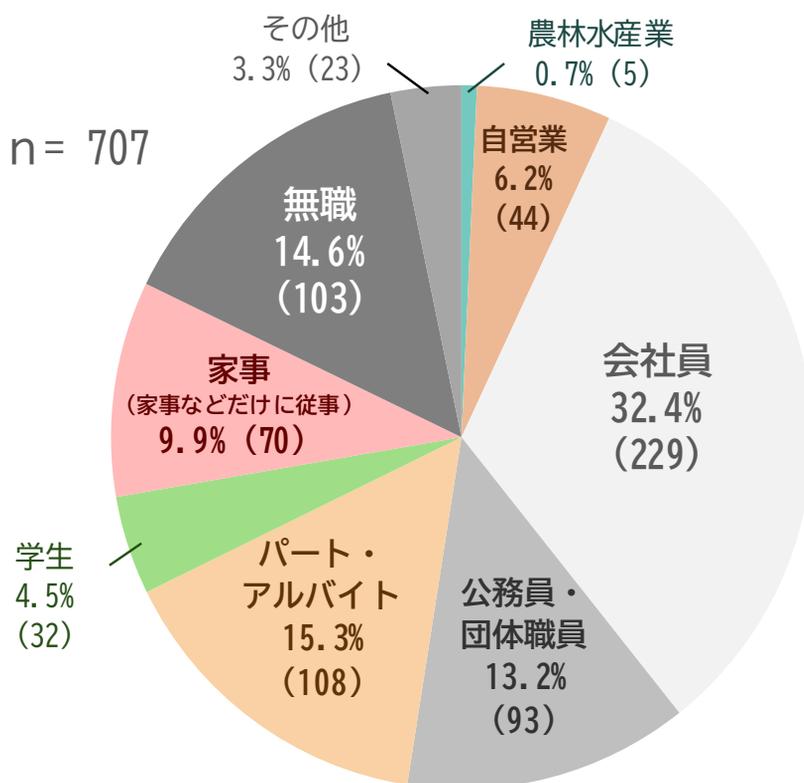


(4) 職業

問 職業

- ・回答者の職業は「会社員」が32.4%、「パート・アルバイト」が15.3%、「無職」が14.6%、「公務員・団体職員」が13.2%などとなっており、何らかの形態で働いている方が67.8%となっています。

職業	人数	構成比 (%)
農林水産業	5	0.7
自営業	44	6.2
会社員	229	32.4
公務員・団体職員	93	13.2
パート・アルバイト	108	15.3
学生	32	4.5
家事（家事などだけに従事）	70	9.9
無職	103	14.6
その他	23	3.3
計	707	100.0



(5) 原発事故当時の住所

問 原発事故当時の住所

- ・「福島市内」が82.3%、「福島県内の自治体」が8.3%、「福島県外の自治体」が9.3%となっています。

当時の住所	人数	構成比 (%)
福島市内	583	82.3
福島県内の自治体	59	8.3
福島県外の自治体	66	9.3
計	708	100.0

(5) - 2 転入してからの期間

問 転入してからの期間についてお答えください。

- ・福島県外から福島市へ転入してからの期間は「5年以上」が55.4%と半数以上を占めており、次いで「1年以上5年未満」33.8%、「1年未満」10.8%の順となっています。

期間	人数	構成比 (%)
1年未満	7	10.8
1年以上5年未満	22	33.8
5年以上	36	55.4
計	65	100.0

2 放射線の健康影響について

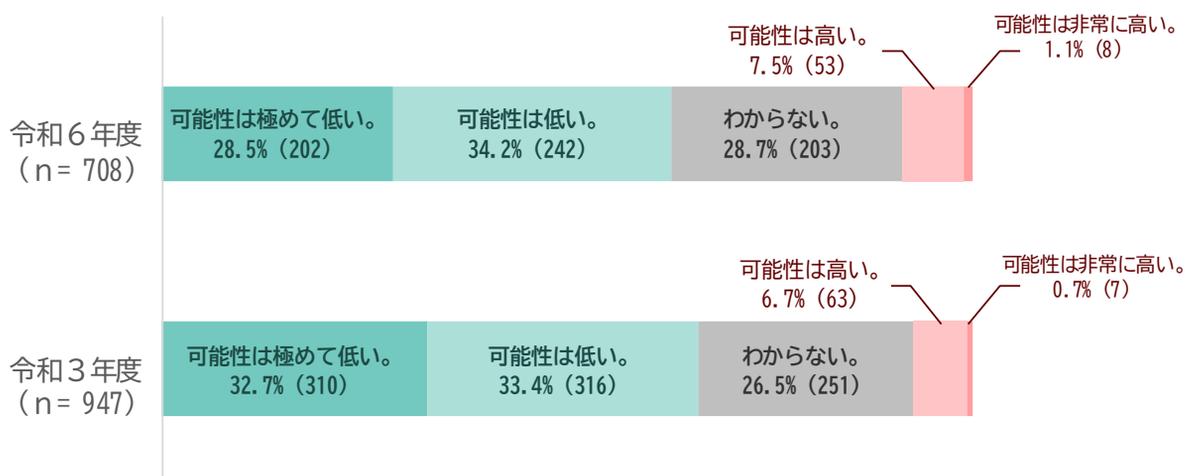
(1) 自身や家族への健康被害の可能性

問 現在の本市の空間線量や食品に含まれる放射線量で、今後あなたや家族などに健康被害（例えば、がんの発症など）がどのくらいおきると思いますか。

- ・「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の合計が62.7%と半数以上を占めています。
- ・「可能性は高い。」「可能性は非常に高い。」の合計が8.6%、「わからない」と回答した方は28.7%となっています。

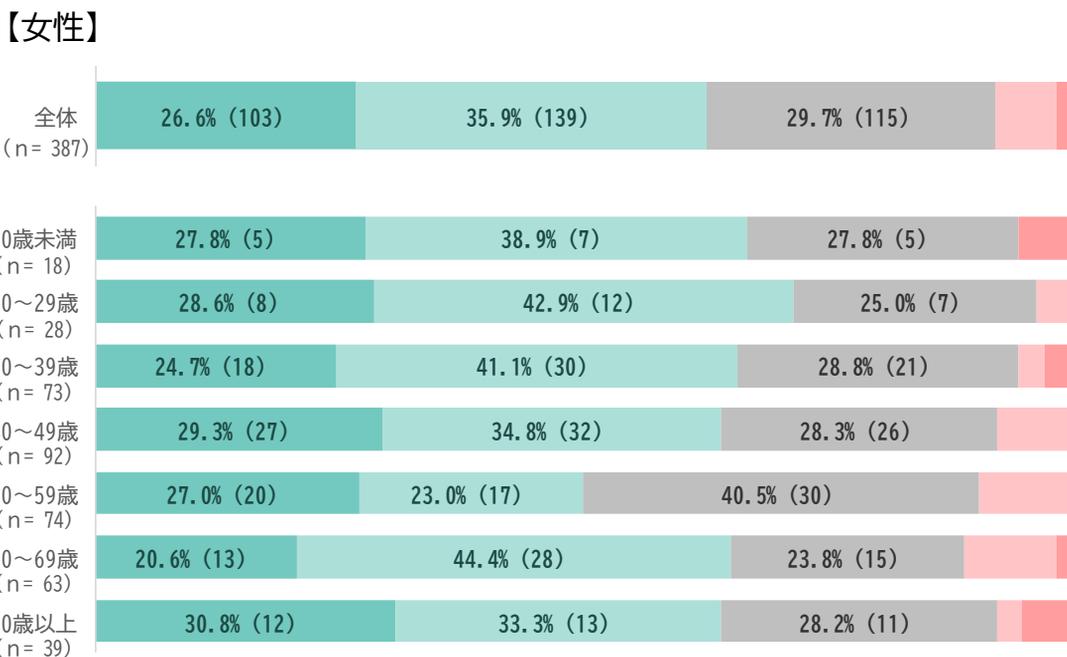
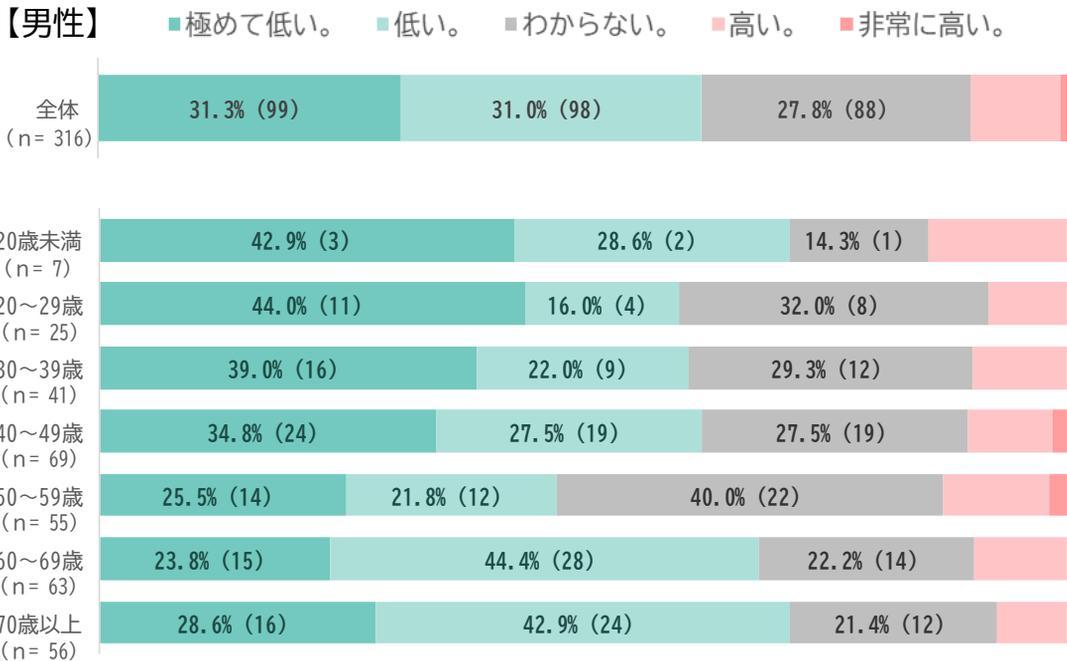
項目	人数	構成比 (%)
可能性は極めて低い。	202	28.5
可能性は低い。	242	34.2
わからない。	203	28.7
可能性は高い。	53	7.5
可能性は非常に高い。	8	1.1
計	708	100.0

- ・令和3年度に実施したアンケート調査と比較すると、全体における回答の割合はほぼ横ばいとなっています。



① 自身や家族への健康被害の可能性 × 性別・年齢

- ・性別による回答の割合は大きな変化が見られず、「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の合計が60%以上を占めており、「わからない。」との回答が30%程度となっています。
- ・年齢別でも、多くの世代で「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の合計が60%以上となっていますが、男女ともに50代では「わからない。」の回答が増加しています。



(2) (1) の理由

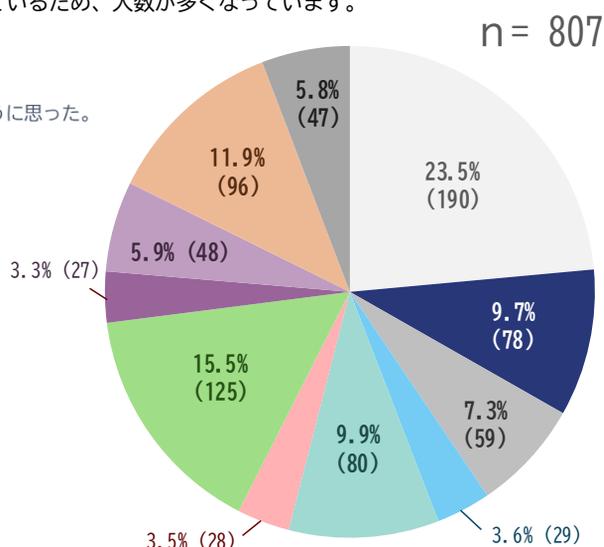
問 (1) でそのように思った理由は何ですか。

- ・「テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。」が23.5%と最も多くなっており、次いで「科学には未だわからないことがあると思うから。」15.5%となっています。

思った理由	人数	構成比 (%)
テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。	190	23.5
I A E A (国際原子力機関)、I C R P (国際放射線防護委員会) などの、国内外の専門機関の情報を見てそのように思った。	78	9.7
復興庁や環境省などの政府機関からの情報を見てそのように思った。	59	7.3
身近な人から聞いた情報・ネットで見た情報からそのように思った。	29	3.6
当該事故による被ばく線量は低いと思うから。	80	9.9
当該事故による被ばく線量は高いと思うから。	28	3.5
科学には未だわからないことがあると思うから。	125	15.5
放射線は体に悪いものだと思うから。	27	3.3
放射線は体にたまって健康に悪影響を及ぼすものだから。	48	5.9
健康影響が認められたという情報を目にしたことがないから。	96	11.9
その他	47	5.8
計	807	100.0

※単一回答ですが、複数選択されたものも集計に含めているため、人数が多くなっています。

- テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。
- I A E A、I C R P などの、国内外の専門機関の情報を見てそのように思った。
- 復興庁や環境省などの政府機関からの情報を見てそのように思った。
- 身近な人から聞いた情報・ネットで見た情報からそのように思った。
- 当該事故による被ばく線量は低いと思うから。
- 当該事故による被ばく線量は高いと思うから。
- 科学には未だわからないことがあると思うから。
- 放射線は体に悪いものだと思うから。
- 放射線は体にたまって健康に悪影響を及ぼすものだと思うから。
- 健康影響が認められたという情報を目にしたことがないから。
- その他



- ・その他としては、「健康被害の要因を断定するのが極めて困難だと思うから」「正しい情報が何なのかわからない。」などの意見が挙げられました。

(3) 次世代以降への健康被害の可能性

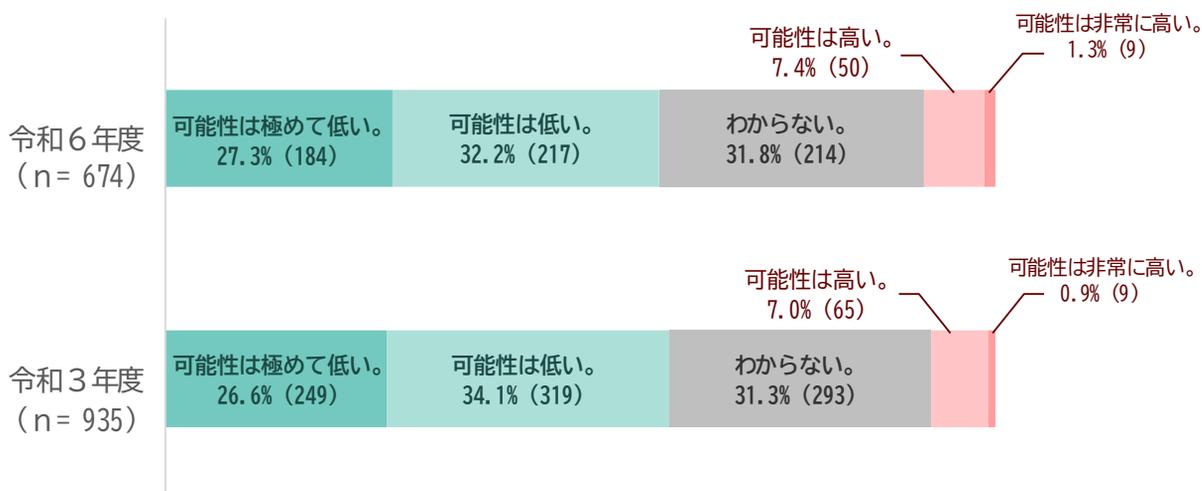
問

現在の本市の空間線量や食品に含まれる放射線量で、次世代以降の人（将来生まれてくる自分の子や孫など）に健康被害がどのくらいおきると思いますか。

- ・「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の合計が59.5%と半数以上を占めています。
- ・「わからない」と回答した方は31.8%、「可能性は高い。」「可能性は非常に高い。」の合計が8.7%となっています。

項目	人数	構成比 (%)
可能性は極めて低い。	184	27.3
可能性は低い。	217	32.2
わからない。	214	31.8
可能性は高い。	50	7.4
可能性は非常に高い。	9	1.3
計	674	100.0

- ・令和3年度に実施したアンケート調査と比較すると、全体における回答の割合はほぼ横ばいとなっています。



② 次世代以降への健康被害の可能性 × 性別・年齢

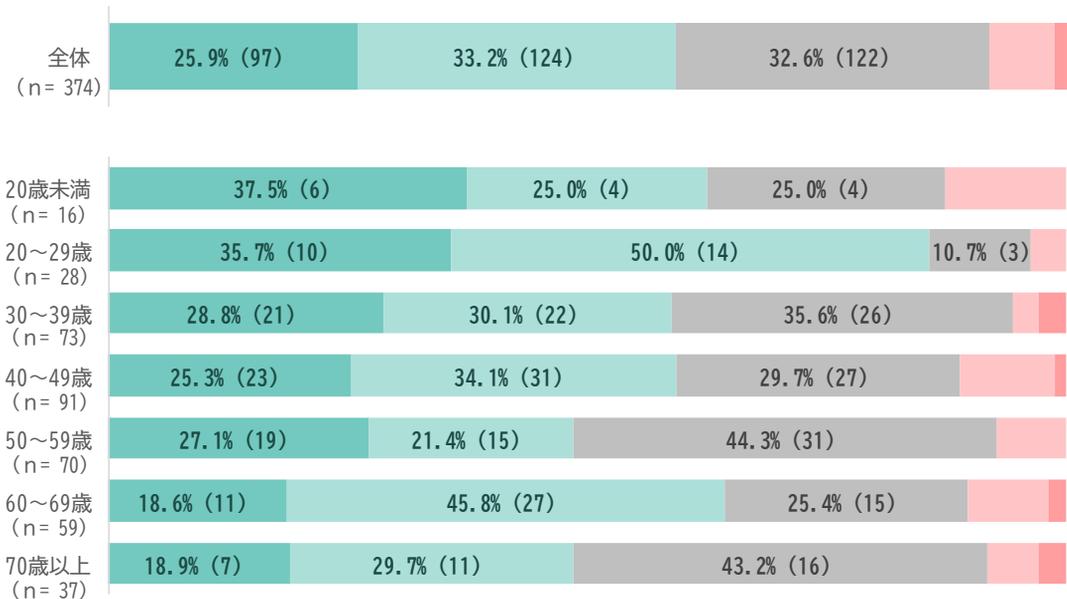
- ・性別による回答の割合は男女ともに同じような傾向を示しており、「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の合計が約60%、「わからない。」の回答が約30%となっています。
- ・年齢別では、特に20代で「可能性は極めて低い。」「可能性は低い。」の割合が高くなっており、男女ともに80%以上となっています。

■ 極めて低い。 ■ 低い。 ■ わからない。 ■ 高い。 ■ 非常に高い。

【男性】



【女性】



③ 健康被害の可能性 × 原発事故当時の住所

- ・【自身や家族への健康被害の可能性】 【次世代以降への健康被害の可能性】
ともに、原発事故当時の住所が「福島市内」「福島県内の自治体」「福島県外の自治体」すべてにおいて、「可能性は極めて低い。」「可能性は低い」の合計が50%以上となっています。

■極めて低い。 ■低い。 ■わからない。 ■高い。 ■非常に高い。

【自身や家族への健康被害の可能性】



【次世代以降への健康被害の可能性】



(4) (3) の理由

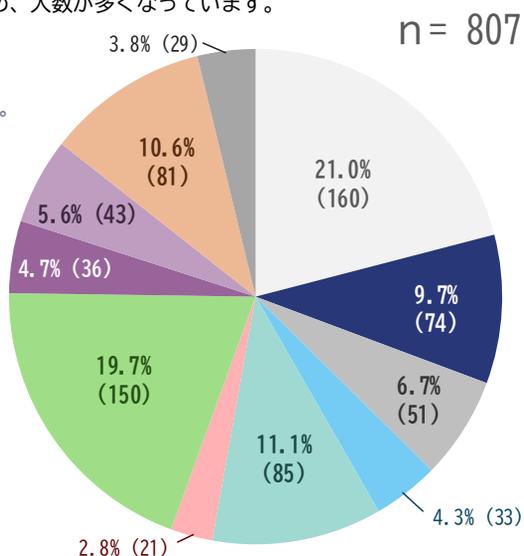
問 (3) でそのように思った理由は何ですか。

- ・「テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。」が21.0%と最も多くなっており、次いで「科学には未だわからないことがあると思うから。」19.7%となっています。

思った理由	人数	構成比 (%)
テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。	160	21.0
I A E A (国際原子力機関)、I C R P (国際放射線防護委員会) などの、国内外の専門機関の情報を見てそのように思った。	74	9.7
復興庁や環境省などの政府機関からの情報を見てそのように思った。	51	6.7
身近な人から聞いた情報・ネットで見た情報からそのように思った。	33	4.3
当該事故による被ばく線量は低いと思うから。	85	11.1
当該事故による被ばく線量は高いと思うから。	21	2.8
科学には未だわからないことがあると思うから。	150	19.7
放射線は体に悪いものだと思うから。	36	4.7
放射線は体にたまって健康に悪影響を及ぼすものだから。	43	5.6
健康影響が認められたという情報を目にしたことがないから。	81	10.6
その他	29	3.8
計	763	100.0

※単一回答ですが、複数選択されたものも集計に含めているため、人数が多くなっています。

- テレビや新聞などの報道機関からの情報を見てそのように思った。
- I A E A、I C R P などの、国内外の専門機関の情報を見てそのように思った。
- 復興庁や環境省などの政府機関からの情報を見てそのように思った。
- 身近な人から聞いた情報・ネットで見た情報からそのように思った。
- 当該事故による被ばく線量は低いと思うから。
- 当該事故による被ばく線量は高いと思うから。
- 科学には未だわからないことがあると思うから。
- 放射線は体に悪いものだと思うから。
- 放射線は体にたまって健康に悪影響を及ぼすものだと思うから。
- 健康影響が認められたという情報を目にしたことがないから。
- その他



- ・その他として、「今回のようなことは初めてで、どういう影響が出るかは未知数」「実際に時間が経たないとわからない」などの意見が挙げられました。

3 内部被ばく検査について

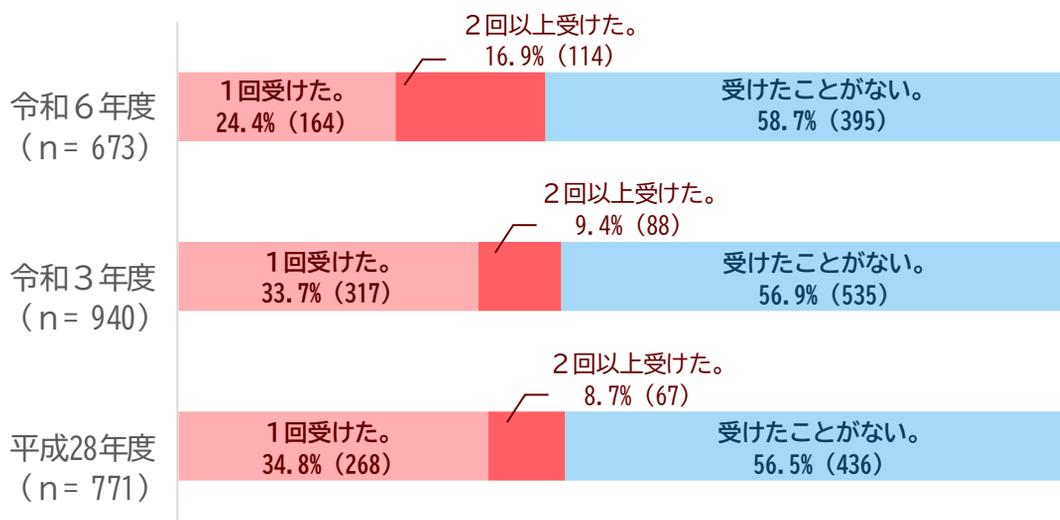
(1) 受検履歴

問 本市が行っている内部被ばく検査を受けましたことがありますか。

- ・「1回受けた。」が23.1%、「2回以上受けた。」が16.1%、「受けたことがない。」が55.6%となっています。

受検回数	人数	構成比 (%)
1回受けた。	164	24.4
2回以上受けた。	114	16.9
受けたことがない。	395	58.7
計	673	100.0

- ・令和3年度、平成28年度に実施したアンケート調査との比較は以下のとおりとなっています。



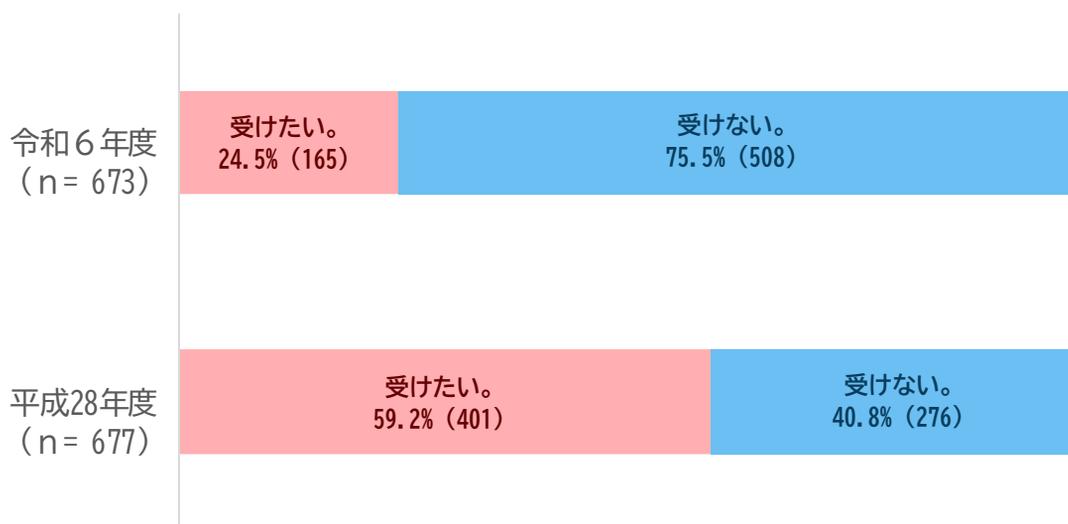
(2) 今後の受検希望

問 今後内部被ばく検査を受けたいと思いますか。

- ・ 今後内部被ばく検査を「受けたい。」の回答は24.5%、「受けない。」の回答が75.5%となっています。

受検希望	人数	構成比 (%)
受けたい。	165	24.5
受けない。	508	75.5
計	673	100.0

- ・ 平成28年度に実施したアンケート調査と比較すると、「受けたい。」の割合が34.7ポイント減少し、「受けない。」の割合が大きく増加しています。



(3) 受検を希望する理由

問

(2)で「受きたい。」を選択した方にお聞きします。
その理由は何ですか。

- ・「経年変化を確認するために受きたい。」が45.1%と最も多くなっており、次いで「内部被ばくに不安があるから受きたい。」28.6%、「測定結果を記録に残すために受きたい。」14.8%となっています。

受きたい理由	人数	構成比 (%)
内部被ばくに不安があるから受きたい。	52	28.6
経年変化を確認するため受きたい。	82	45.1
市内で採れた山菜やイノシシなどの流通していないものを食べたときなど、気になるときに随時検査を受きたい。	16	8.8
測定結果を記録に残すために受きたい。	27	14.8
その他	5	2.7
計	182	100.0

※単一回答ですが、複数選択されたものも集計に含めているため、人数が多くなっています。



- ・その他では、「今後、一つのデータとして後世に記録を残していくため。」といった意見が挙げられました。

(4) 受検を希望しない理由

問

(2)で「受けない。」を選択した方にお聞きします。
その理由は何ですか。

- ・「内部被ばくに不安がないので受けない。」が50.8%と最も多く、次いで「受けに行く時間がないので受けない。」19.6%、「以前受けた検査結果に納得したので今後は受けない。」17.8%となっています。

受けない理由	人数	構成比 (%)
受けに行く時間がないので受けない。	100	19.6
受けに行く交通手段がないので受けない。	7	1.4
以前受けた検査結果に納得したので今後は受けない。	91	17.8
内部被ばくに不安がないので受けない。	259	50.8
その他	53	10.4
計	510	100.0

※単一回答ですが、複数選択されたものも集計に含めているため、人数が多くなっています。



- ・その他では、「高齢のためもう必要ないと思っている。」「これまで受けた方々のデータを参照すればいいと思う。」などの意見が挙げられました。

(5) 検査の規模、終了時期

問

今後の内部被ばく検査の実施についてどうあるべきだと思いますか。
(本市に望むことは何ですか。)

- ・「今後もこれまでどおり継続して行う。」29.3%、「規模を縮小して継続する。」25.7%と、継続を基本とする回答が合計で55.0%と半数以上を占めています。
- ・「今後の検査結果や定期的なアンケート調査によって判断する。」が30.7%、「福島第一原発の廃炉作業が終了するまで検査を続ける。」が9.9%となっています。

本市に望むこと	人数	構成比 (%)
今後もこれまでどおり継続して行う。	199	29.3
規模を縮小して継続する。	175	25.7
今後の検査結果や定期的なアンケート調査によって判断する。	209	30.7
福島第一原発の廃炉作業が終了するまで検査を続ける。	67	9.9
その他	30	4.4
計	680	100.0



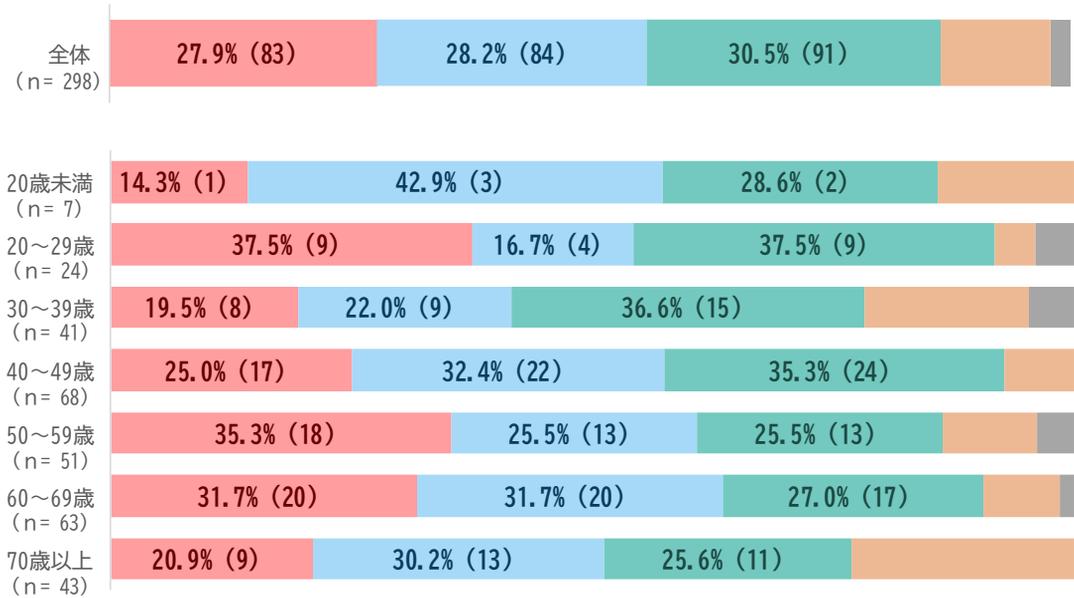
- ・その他では、「終了してもよい。」や「必要ない。」といった意見が11件、「希望者や不安な人が受けられるようにすべき」との意見が10件、それ以外の意見が9件となっています。

④ 検査の規模・終了時期 × 性別・年齢

- ・全年代の回答では男女ともに、「これまでどおり継続」「規模を縮小して継続」の合計が約55%、「検査結果やアンケートで判断」の回答が約30%となっています。



【男性】



【女性】

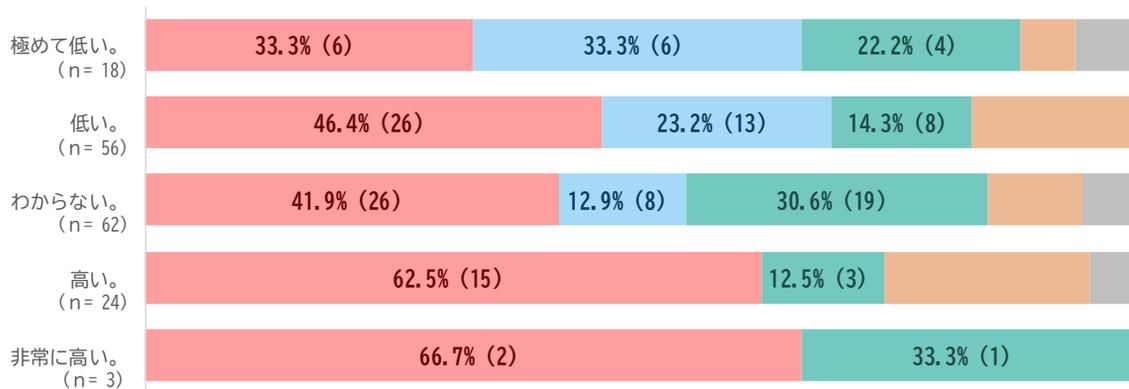


⑤ 今後の受検希望 × 自身や家族への健康被害の可能性 × 検査の規模・終了時期

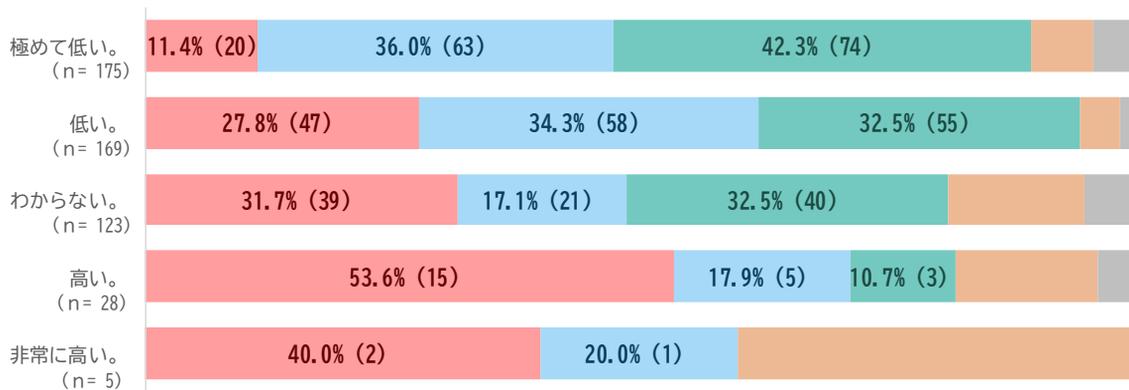
- ・ 今後内部被ばく検査を【受けない。】との回答では、自身や家族への健康被害の可能性が「高い。」「非常に高い。」において、検査を「これまでどおり継続」の割合が60%以上となっており、健康被害を不安視する回答者の多くが検査の継続を希望しています。
- ・ 今後内部被ばく検査を【受けない。】との回答では、【受けない。】と比較して「規模を縮小して継続」や「検査結果やアンケートで判断」の割合が増加しています。

■ これまでどおり継続 ■ 規模を縮小して継続 ■ 検査結果やアンケートで判断 ■ 第一原発の廃炉まで ■ その他

今後内部被ばく検査を【受けない。】



今後内部被ばく検査を【受けない。】



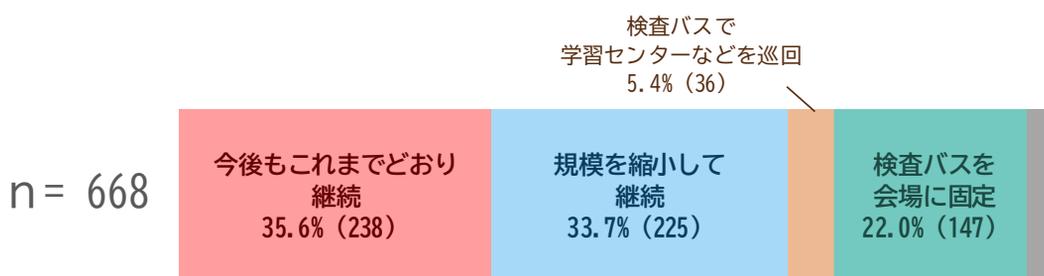
(6) 小中学生への検査体制

問

今後の小中学校向けの内部被ばく検査についてどうあるべきだと思いますか。（本市に望むことは何ですか。）

- ・「小・中学校の巡回検査を今後もこれまでどおり行う。」が35.6%、「学校巡回による検査は継続するが、対象者の見直し、隔年実施など規模を縮小して実施する。」が33.7%と、小中学校巡回検査の継続を希望する割合は全体の70%近くを占めています。
- ・一方で、「学校巡回による検査は取りやめ、検査バスを会場に固定し、小・中学生を含む市民がいつでも受検できる体制を整える。」の回答は22.0%となっています。

本市に望むこと	人数	構成比 (%)
小・中学校の巡回検査を今後もこれまでどおり行う。	238	35.6
学校巡回による検査は継続するが、対象者の見直し、隔年実施など規模を縮小して実施する。	225	33.7
学校巡回による検査は取りやめ、検査バスで学習センターなどを巡回し、各地区で児童・生徒も含めた検査を行う。	36	5.4
学校巡回による検査は取りやめ、検査バスを会場（保健福祉センター）に固定し、小・中学生を含む市民がいつでも受検できる体制を整える。	147	22.0
その他	22	3.3
計	668	100.0



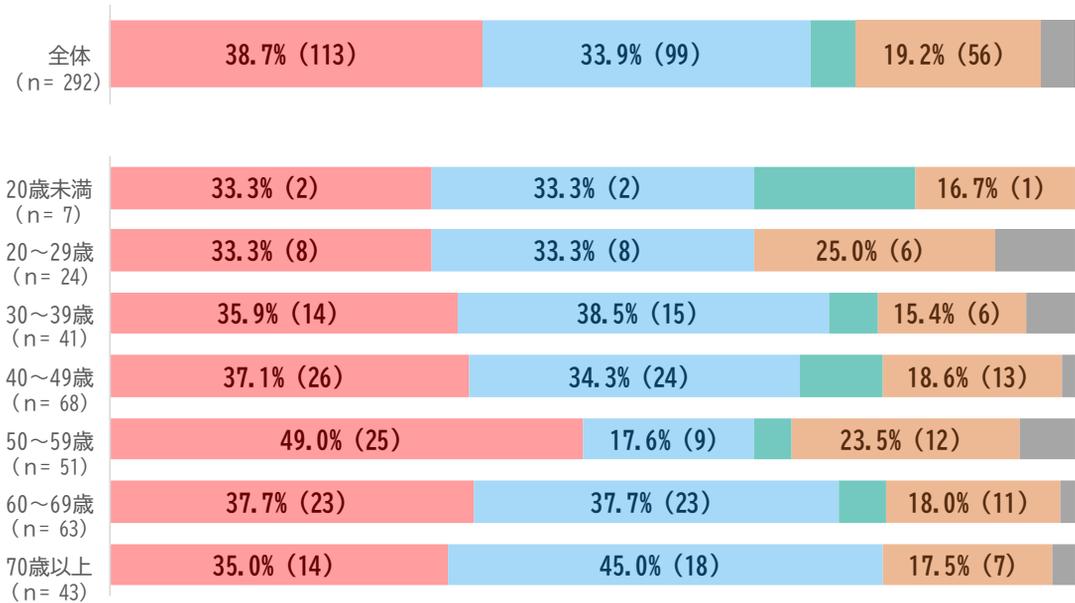
- ・その他では、「もう必要ない。」といった意見もある一方、「不安を感じている人がいる限り続ける。」という意見も挙げられました。

⑥ 小中学生への検査体制 × 性別・年齢

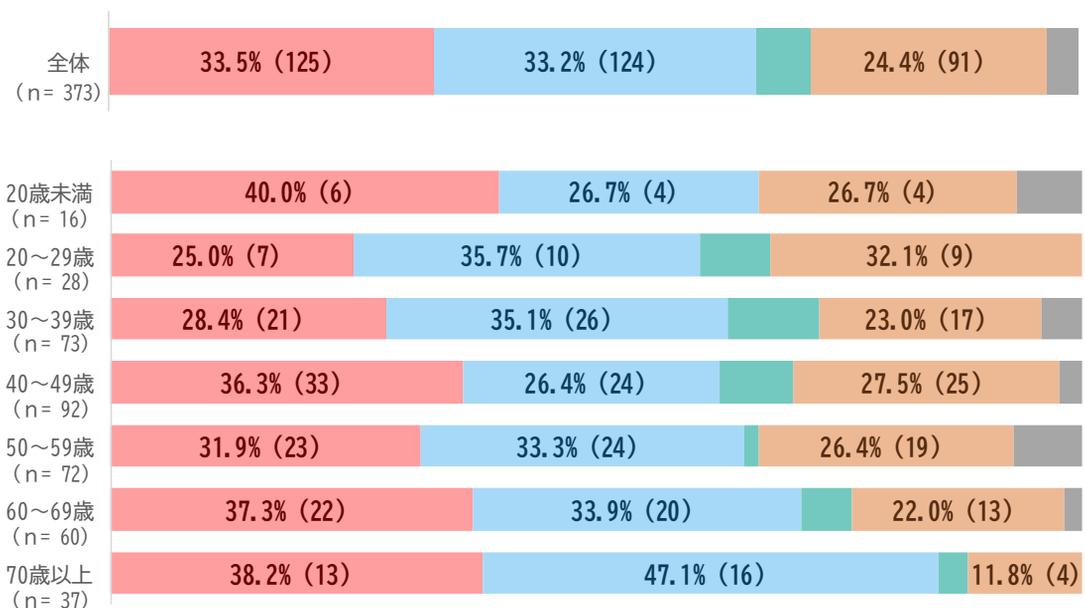
- ・男性は女性よりも「これまでどおり行う」の割合が多く、女性は男性よりも「会場を固定」の割合が多くなっています。



【男性】



【女性】

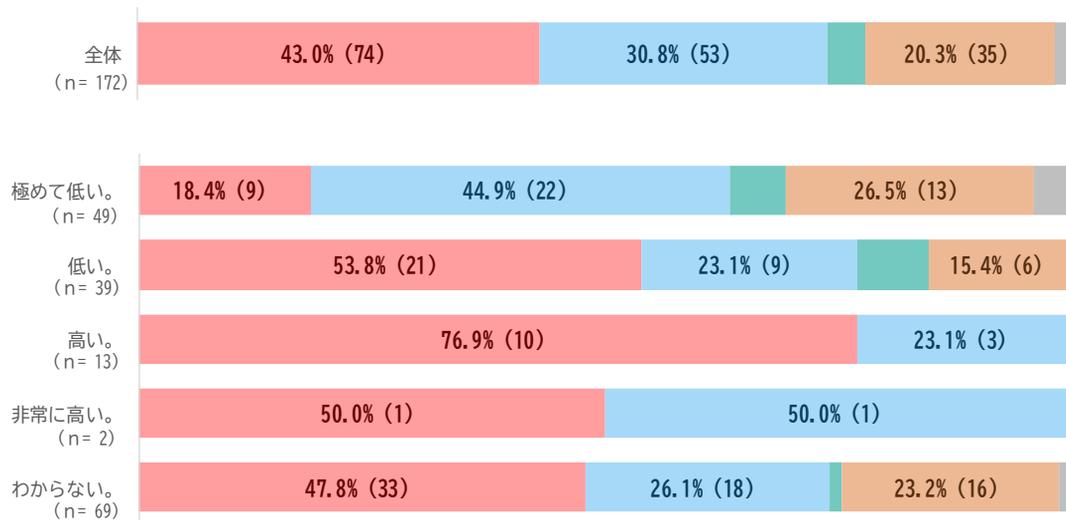


⑦ 世帯員数 × 次世代以降への健康被害の可能性 × 小中学生への検査体制

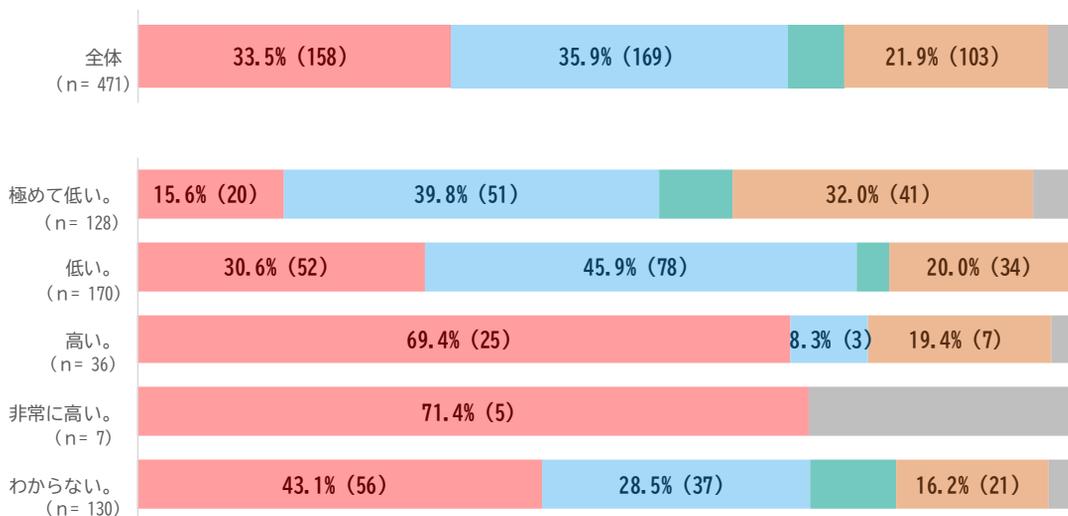
- ・中学生以下と【同居している。】の回答全体の割合では、「これまでどおり行う」43.0%、「規模を縮小して実施」30.8%、「会場を固定」20.3%などとなっています。
- ・世帯員数が【1名】または中学生以下と【同居していない。】の回答全体の割合では「これまでどおり行う」33.5%となっており、【同居している。】と比較して10%近く減少しています。

■これまでどおり行う ■規模を縮小して実施 ■学習センターなどを巡回 ■会場を固定 ■その他

中学生以下と【同居している。】



【1名】または 中学生以下と【同居していない。】



4 外部被ばく検査について

(1) 受検履歴

問 ガラスバッジでの外部被ばく検査を受けたことがありますか。

- ・「1回受けた。」が20.4%、「2回以上受けた。」が14.9%、「受けたことがない。」が64.7%となっています。

受検回数	人数	構成比 (%)
1回受けた。	137	20.4
2回以上受けた。	100	14.9
受けたことがない。	434	64.7
計	671	100.0

(2) 今後の受検希望

問 今後外部被ばく検査を受けたいと思いますか。

- ・今後外部被ばく検査を「受けたい。」の回答は15.5%、「受けない。」の回答が84.5%となっています。

受検希望	人数	構成比 (%)
受けたい。	104	15.5
受けない。	566	84.5
計	670	100.0

(3) 受検を希望する理由

問

(2)で「受きたい。」を選択した方にお聞きします。
その理由は何ですか。

- ・「経年変化を確認するために受きたい。」が47.5%と最も多くなっており、次いで「外部被ばくに不安があるから受きたい。」27.5%、「測定結果を記録に残すために受きたい。」19.2%となっています。

受きたい理由	人数	構成比 (%)
外部被ばくに不安があるから受きたい。	33	27.5
経年変化を確認するため受きたい。	57	47.5
屋外で仕事や作業（農業・建設業など）をしたときなどに受きたい。	4	3.3
測定結果を記録に残すために受きたい。	23	19.2
その他	3	2.5
計	120	100.0

※単一回答ですが、複数選択されたものも集計に含めているため、人数が多くなっています。



- ・その他では、「現状の確認と客観的な証拠を残すため。」といった意見が挙げられました。

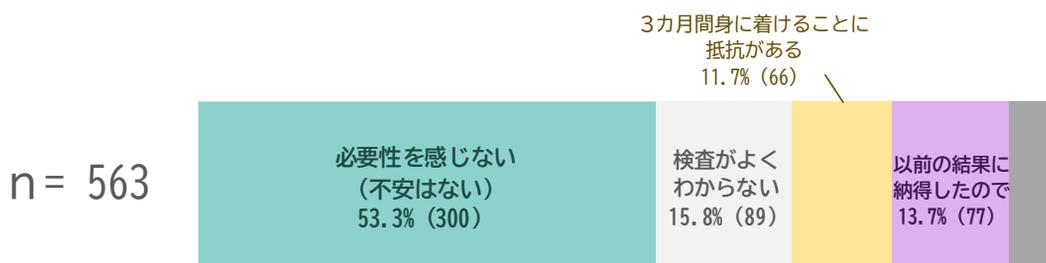
(4) 受検を希望しない理由

問

(2)で「受けない。」を選択した方にお聞きします。
その理由は何ですか。

- ・「必要性を感じない（不安はないため）。」が53.3%と最も多く、次いで「検査自体がよくわからないため。」15.8%、「以前受けた検査結果に納得したので今後は受けない。」13.7%などとなっています。

受けない理由	人数	構成比 (%)
必要性を感じない（不安はないため）。	300	53.3
検査自体がよくわからないため。	89	15.8
3カ月間身に着けることに抵抗があるため。	66	11.7
以前受けた検査結果に納得したので今後は受けない。	77	13.7
その他	31	5.5
計	563	100.0



- ・その他では、内部被ばく検査と同様に「高齢のためもう必要ないと思っている。」や「線量が下がってきているから。」などの意見が挙げられました。

(5) 検査の規模、終了時期

問

今後のガラスバッジによる外部被ばく検査の実施についてどうあるべきだと思いますか。（本市に望むことは何ですか。）

- ・「今後の検査結果や定期的なアンケート調査によって検査の終了を判断する。」63.8%、「福島第一原発の廃炉作業が終了するまで検査を続ける。」12.9%と、今後の状況によって判断するという回答が全体の75%以上を占めています。
- ・「ガラスバッジでの外部被ばく検査は、今後も継続して実施する。」16.9%となっています。

本市に望むこと	人数	構成比 (%)
ガラスバッジでの外部被ばく検査は、今後も継続して実施する。	117	16.9
今後の検査結果や定期的なアンケート調査によって検査の終了を判断する。	441	63.8
福島第一原発の廃炉作業が終了するまで検査を続ける。	89	12.9
その他	44	6.4
計	691	100.0



- ・その他では、内部被ばく検査と同様に「終了してもよい。」「不安な人、受けたい人がいる限りは続ける。」といった意見が挙げられました。

5 福島市の放射線に関する取り組みについて

(1) 放射線に関する情報の入手方法

問

放射線やその他健康に関する情報は、どのように入手していますか。
【複数回答可】

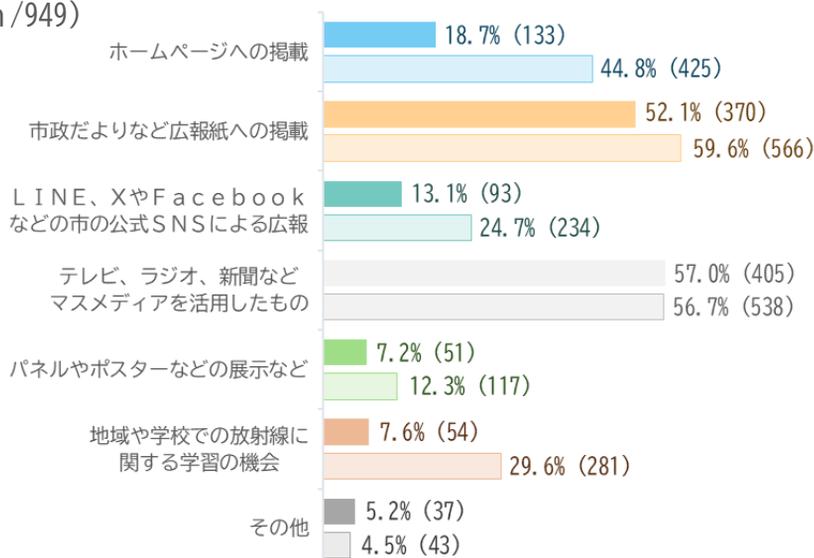
- ・「テレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを活用したもの」が57.0%と最も多くなっています。
- ・次いで「市政だよりなど広報紙への掲載」が52.1%となっています。

情報の入手方法	人数	回答率 (%)
ホームページへの掲載	133	18.7
「市政だより」など広報紙への掲載	370	52.1
LINE、X (旧Twitter)、Facebookなどの市の公式SNSによる広報	93	13.1
テレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを活用したもの	405	57.0
パネルやポスターの展示など	51	7.2
地域や学校での放射線に関する学習の機会	54	7.6
その他	37	5.2
計	1,143	

- ・令和3年度に実施したアンケート調査と比較すると、情報の入手方法の割合は全体的に減少しています。

上段：令和6年度 (n/710)

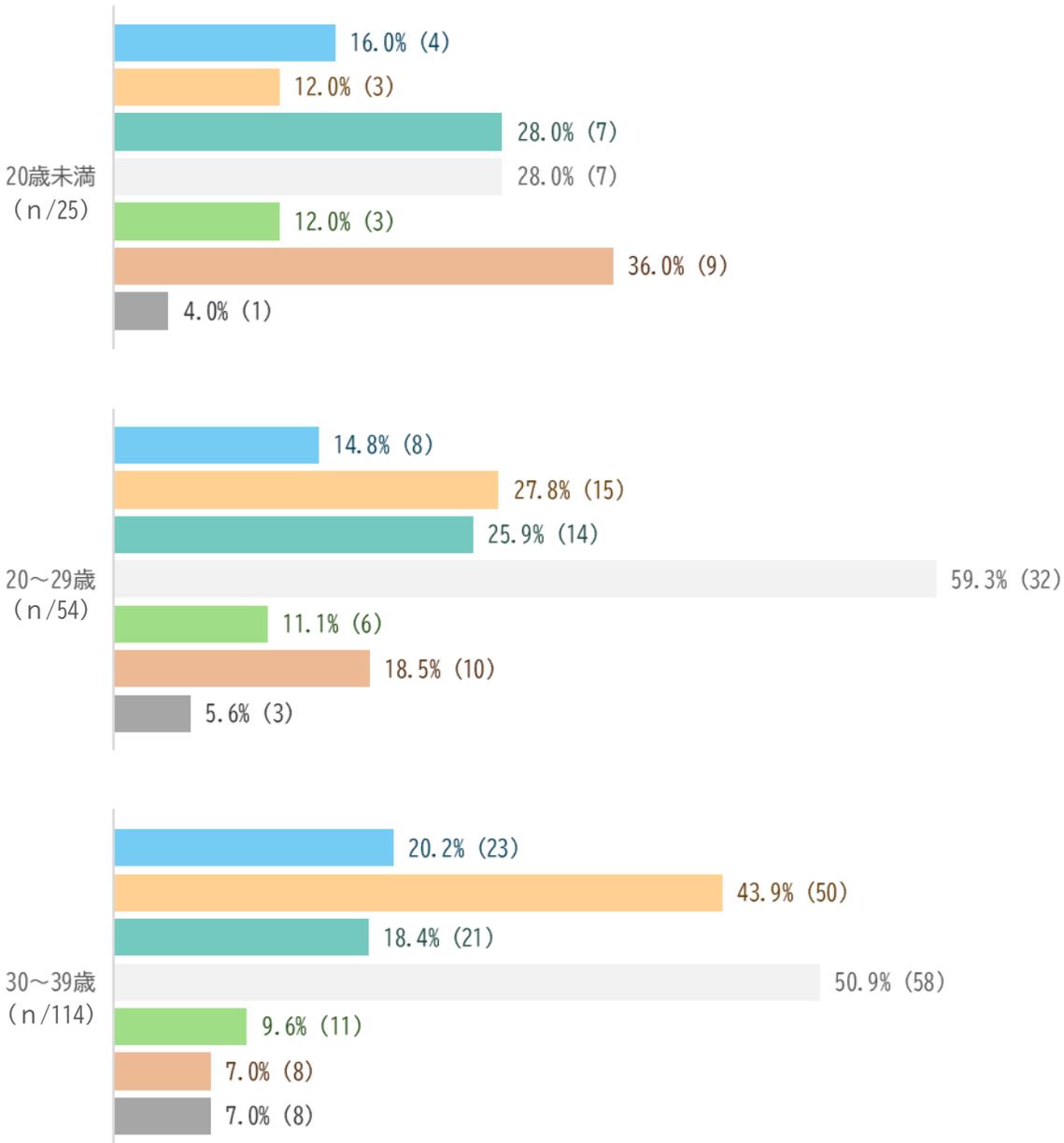
下段：令和3年度 (n/949)

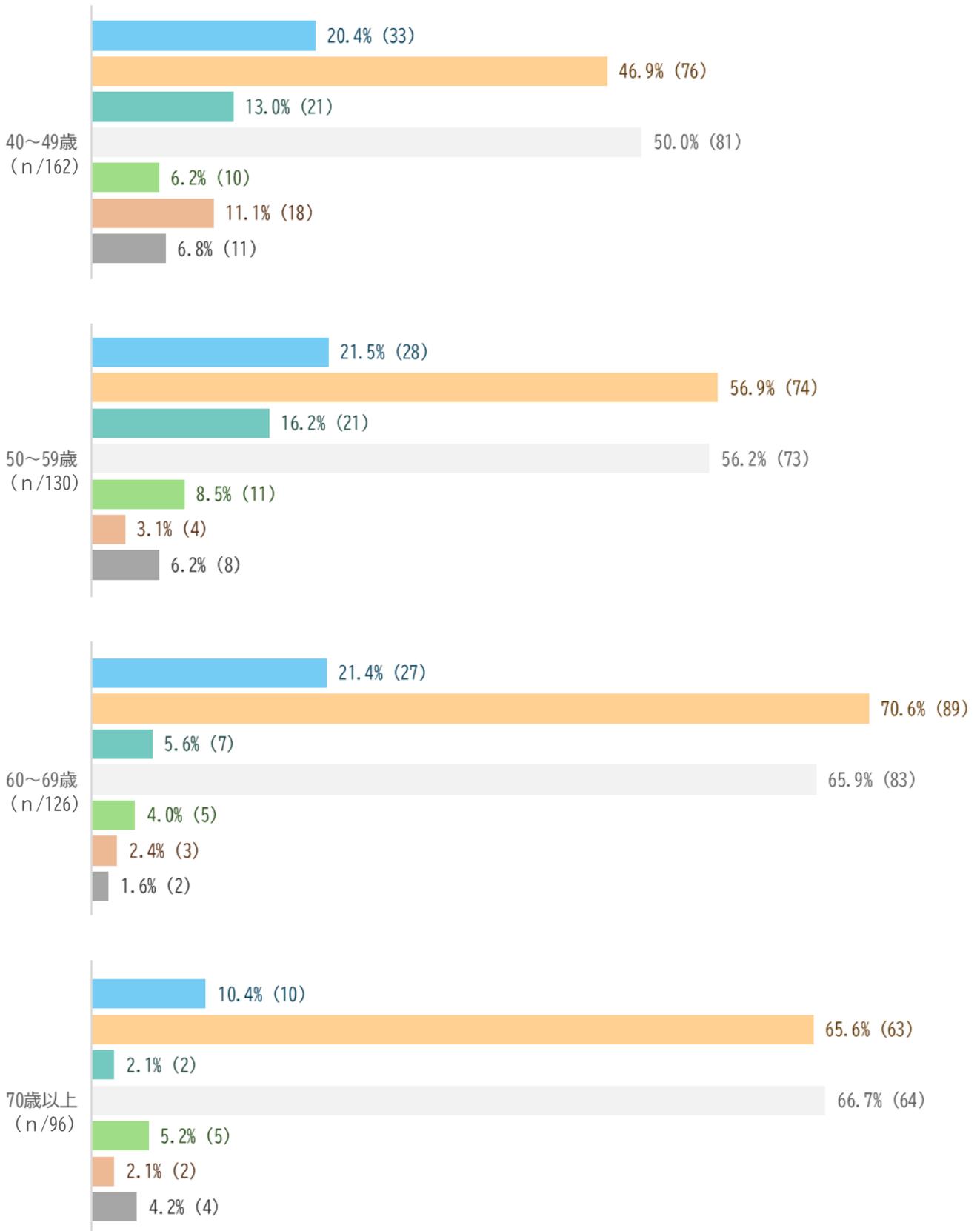


⑧ 放射線に関する情報の入手方法 × 年齢

- ・若年層は他の年代と比較して「市の公式SNS」による情報の入手が多く、年代が上がるにつれて「市政だよりなどの広報紙」の割合が増加しています。

■ ホームページ ■ 広報紙 ■ 公式SNS ■ マスメディア ■ 展示など ■ 講演会など ■ その他





(2) 福島市に求める放射線対策

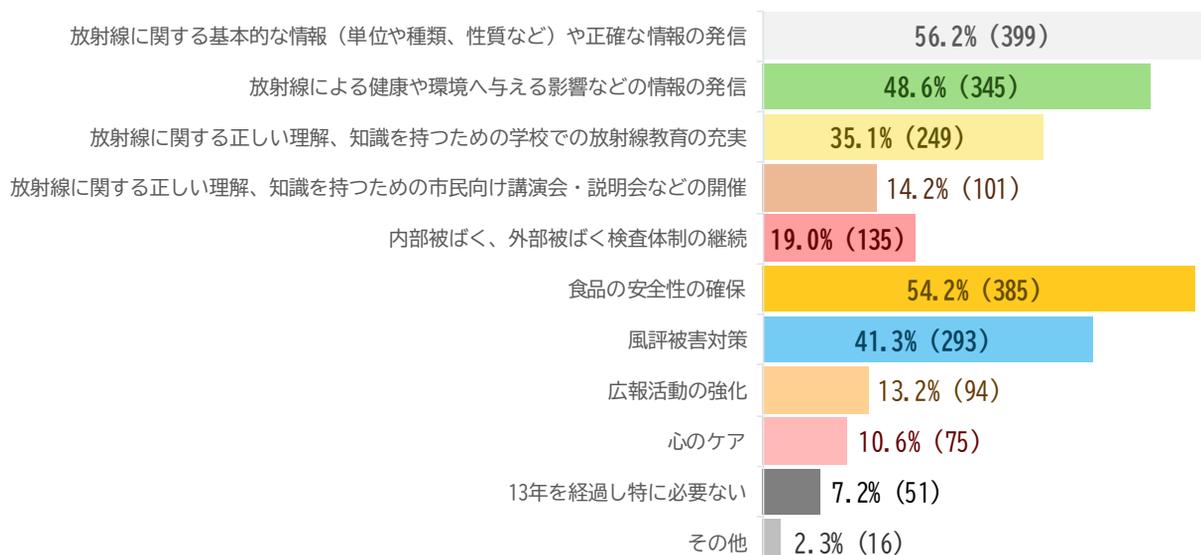
問

今後の福島第一原発事故による放射線対策で本市に望むことは何ですか。
【複数回答可】

- ・「放射線に関する基本的な情報や正確な情報の発信」56.2%、「食品の安全性の確保」54.2%、「放射線による健康や環境へ与える影響などの情報の発信」48.6%などとなっています。

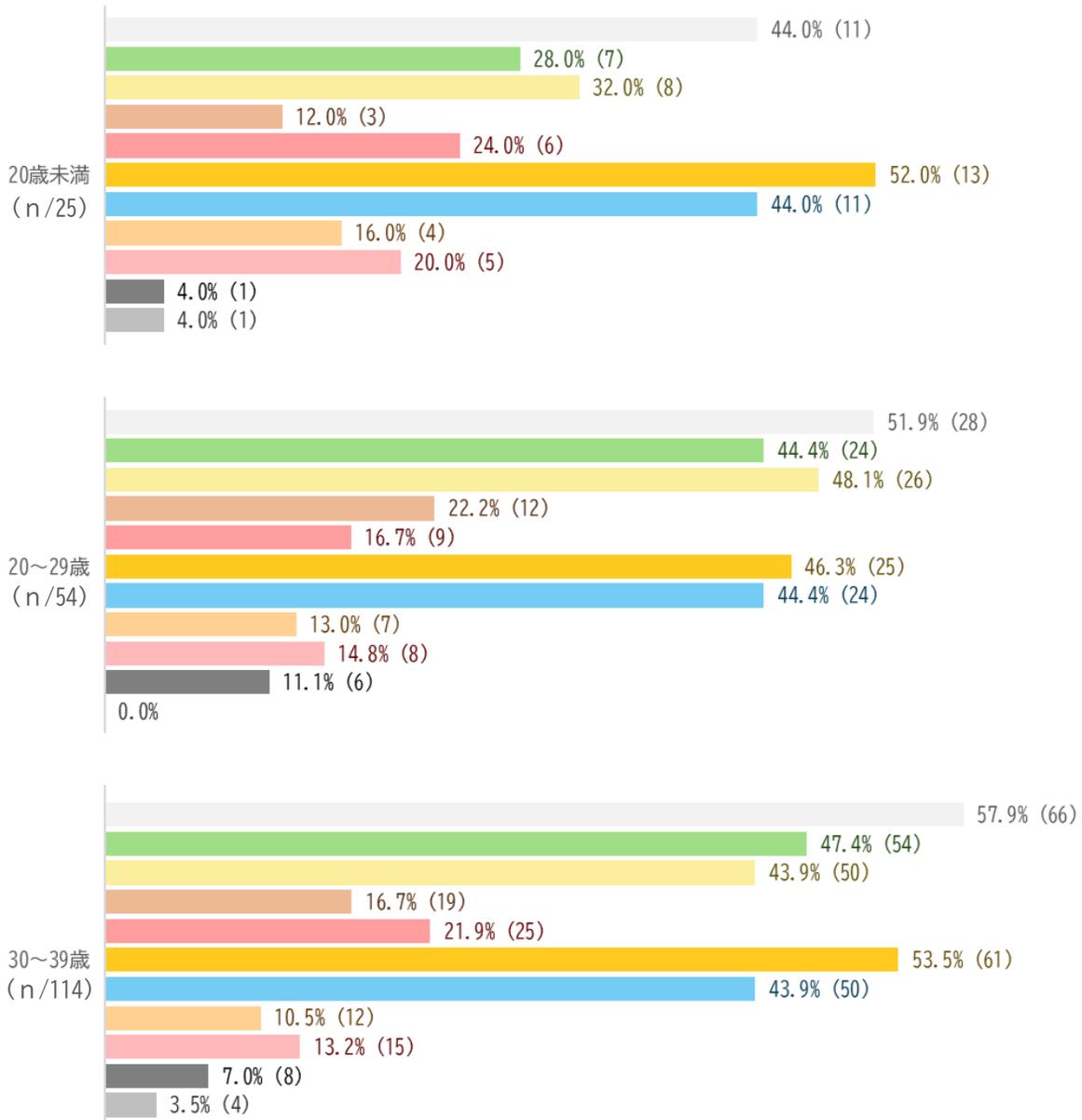
本市に望むこと	人数	回答率 (%)
放射線に関する基本的な情報（単位や種類、性質など）や正確な情報の発信	399	56.2
放射線による健康や環境へ与える影響などの情報の発信	345	48.6
放射線に関する正しい理解、知識を持つための学校での放射線教育の充実	249	35.1
放射線に関する正しい理解、知識を持つための市民向け講演会・説明会などの開催	101	14.2
内部被ばく、外部被ばく検査体制の継続	135	19.0
食品の安全性の確保	385	54.2
風評被害対策	293	41.3
広報活動の強化	94	13.2
心のケア	75	10.6
13年を経過し特に必要ない	51	7.2
その他	16	2.3
計	2,143	

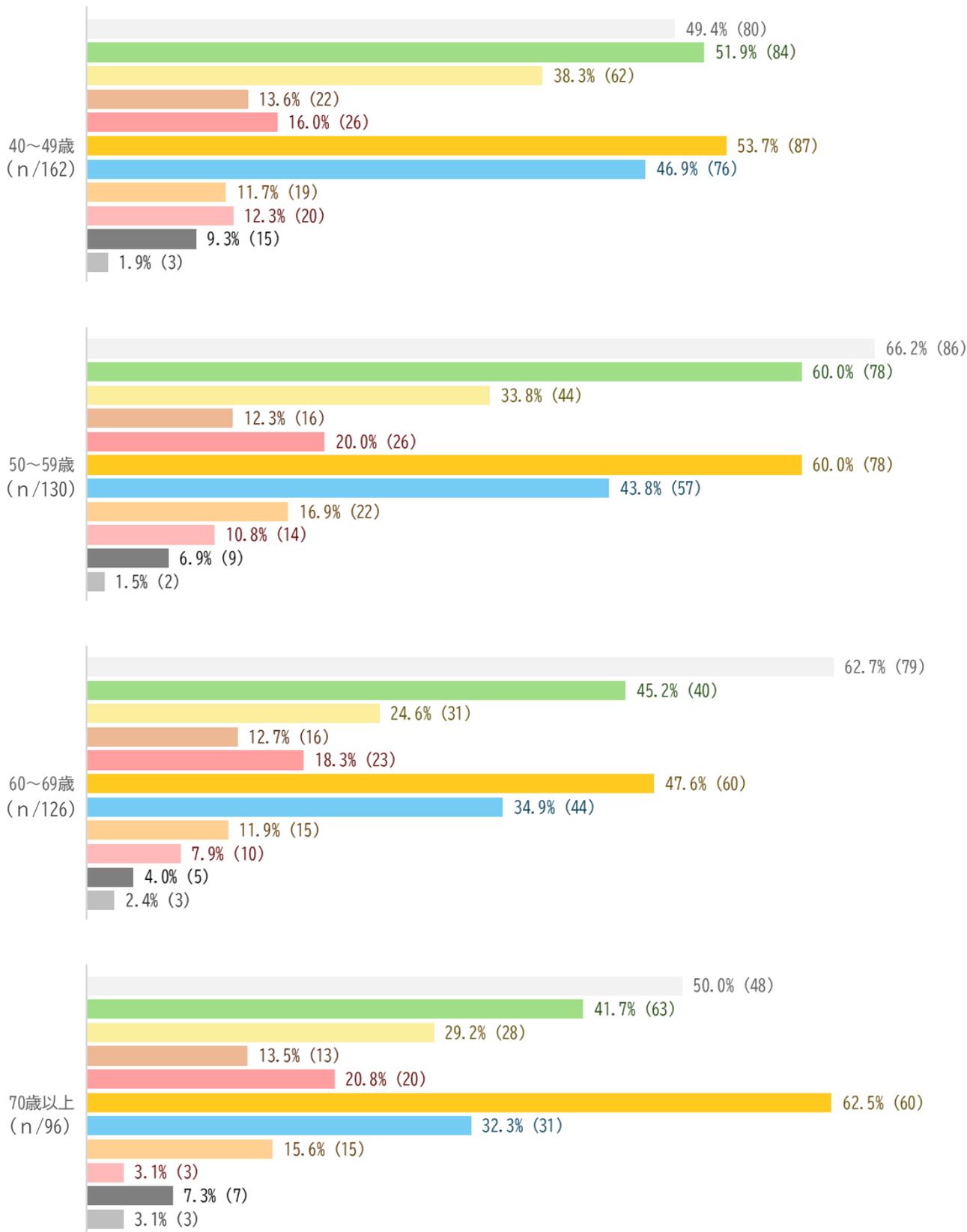
(n/710)



⑨ 福島市に求める放射線対策 × 年齢

- ・「正確な情報発信」や「環境や健康への影響等の情報発信」、「食品の安全性の確保」が全世代で多くなっています。





6 自由意見

(自由記載)

問

内部被ばく検査・外部被ばく検査のあり方、放射線に関する情報発信など事業についてご意見がございましたら、200文字以内で記入してください。

- ・主な分類では、『放射線に関する情報発信』についての意見が最も多く、次いで『内部被ばく検査・外部被ばく検査のあり方』が多くなっています。
- ・個別では、「検査の継続」や「検査体制の見直し」、「定期的な情報発信の継続」や、「情報発信方法の見直し」が多くなっています。

分類	人数
内部被ばく検査・外部被ばく検査のあり方	(38)
検査の継続	16
検査の縮小・終了	8
検査体制の見直し	14
放射線に関する情報発信	(45)
健康や環境へ与える影響についての情報の発信	10
信頼できるデータの発信	8
情報発信方法の見直し	13
定期的な情報発信の継続	14
その他	(19)
放射線教育の充実	5
講演会・説明会などの実施	2
食品の安全性の確保	3
誤った情報・デマへの対処	4
甲状腺検査・ガン検診の実施	2
国・県との連携強化	3
計	102